

音羽山清水寺は洛東の佳境なり。嵯峨天皇の宸筆東宝記に、国家鎮護の為官府を賜り、印一面を拜して長財とす

べしとあり。額は侍従大納言行成の筆と著聞に見へたり。縁起は歴代編年集成に著し、堀川院こゝに行幸し給ひ、一七

日宿したまふ事元亨釈書にあり。大檀那坂上大宿禰田村磨鈴鹿山の鬼神退治の事は、当山の縁起に見えて外の実録聞え

ず。悪七兵衛景清主馬盛久の靈験は平家物語の長門本に詳なり。地主の桜はむかしより名高く古詠多し、音羽滝は四時

増減なく清冽にして所謂五名水の其一なりと、拾芥抄にあり。清水寺に十景あり。

古崖懸泉 春巖開花 音羽暈翠 靈鷲踈鐘 洛陽万戸

鴨河一帯 東郊烟雨 西門遠眺 宕嶺晴雪 龜阜暮靄

新撰朗詠 清水寺上方迎春 正 通

烟霞隔路 三千界。 花柳藏城 十二衢。

自然齋発句集 水かほり花いさぎよき深山かな 宗 祇

黙雲稿

第五橋 東山路斜。 飛泉吹雪 梵王家。 清水寺 天 隣

太平有象遊人喜。 乱后初看地主花。

堤中納言物語云 秋ころばかりきよ水にこもりて侍しに、風いとあらゝかにふきてこの葉ほろくと滝のかたさまに

くづれ、色こきもみじなどつぼねのまへにひまなくちりしきたるを、

いとふ身はつれなきものをうきことの嵐にちれる木葉なりけり 堤中納言

法成寺入道撰政清水寺にこもりて侍けるにつかはされける

玉 葉 瀧の音もいかゞ聞らん都だに物あはれなる頃にも有かな 花 山 院

拾 玉 くりかへし乱れて人をわたすかな清水寺山イの瀧のしら糸 慈 鎮

夫 木 をがみするがために妹が見られつゝ、いづらは心清水の瀧 俊 恵

境内成就院けいだいじやうじゆあんの林泉は名庭にして、相阿弥さうあみの作、後に小堀遠州修補ある所なり。振袖の手水鉢、籬島石、烏帽子石は須磨すまの

浦うらよりこゝに移す、飛石五つの名石は加藤清正朝鮮より取帰りてこゝに寄附す、湯屋ゆや溪たには秀吉公ひでよしこうこゝに遊び給ふ時浴室

を建られし古跡なり、今に中門の形遺れり。護摩堂ごまだうは東福門院とうふくもんあんの御寄附なり。此庭造は洛東らくとうの妙境にして遠近に美景を

連ねたり。又同境宝生院ほうしやうあんの客殿は往昔後奈良院そのかみごならのあんの寢殿を拝してこゝに移す。坊中延命院ほうちゆうえんめいあんは前に豊国山とよくにやま、清閑寺せいがんじ、音羽嶺おとほのみね

を庭中の莊観とし。円養院えんやうあんは林泉より遠望すれば八幡や、山崎やまざき、淀川よどがはの長流鮮にして奇観なり。滝の下南蔵院なんざうあんは酒旗に名

高く、劉伯倫りんはくりんの徒こゝにつどひて音羽おとほの瀧飲の興を催す、俗此楼を浮瀬といふ。